

一般質問

● 深浦町町営住宅(定住促進住宅)整備について伺う

答弁：令和2年度までに、深浦地区より1棟多い4棟の整備を計画している。



小野信吾議員

《小野信吾議員》

①現在、大戸瀬地区に町営住宅(定住促進住宅)が新たに2棟(2世帯)建設され、立地条件もよく公募者多数になると思われる。現在の場所(住宅敷地面積)は7棟と聞いているが、今後の整備計画を伺う。

《町長》

町ではこれまで、平成28年度に「岩崎住宅」を4戸、平成29年度に「深浦住宅」を3棟、そして、今年度は12月末を工期とし新たに「大戸瀬住宅」を2棟、現在建設中である。

現在建設中の場所には7棟分の敷地面積があるが、今年度の国の起債配分額減少により、当初予定していた3棟から2棟の建設に変更したが、まちづくり住民アンケートの結果において、大戸瀬地区住民の定住促進住宅に対する重要度が他地区に比べ高いことも踏まえ、令和2年度に更に住宅2棟を建設し、深浦地区より1棟多い合計4棟とする

計画であり、残り3区画についても入居状況、財政状況等を勘案し対応したい。

今後の当町における住宅整備計画については、国土交通省の補助事業の活用を視野に入れ、空き家を活用した住宅整備を検討することとし、具体的な計画について令和2年度中に事業実施の可否を調査・検討すること進めている。

《小野信吾議員》

②建設中の町営住宅(定住促進住宅)の公募、入居はいつ頃になるのか。

《町長》

大戸瀬住宅の入居公募については、12月27日発行予定の広報ふかうらお知らせ版及び町ホームページで周知し、1月下旬までの約1か月間を募集期間と考えている。募集期間中は、入居を希望するご家族を対象に内覧会を開催。入



▲大戸瀬地区定住促進住宅(関地区)

居者の決定については2月上旬に選考を行い、2月中旬に入居者決定、令和2年4月1日から入居していただくスケジュールとなっている。

猿・クマ対策また外来種における深浦町の生態系についての対策を伺う

《小野信吾議員》

①クマが民家付近に出没し、小学校では保護者がバス停ま

で送り迎えしている状況にある。町は、この大変危険な状況の中、町民の安全をどのように守ろうとしているのか、その対策を伺う。

《町長》

町では、クマ出没時における人身事故を防止するための対策として、捕獲と防災無線による住民への注意喚起を基本としている。公道や民家付近での銃器使用には規制があることから、民家付近でのクマ出没事案については、警察と連携しパトロールを実施している。

今年4月から11月19日までの鳥獣対策実施隊員によるクマ捕獲頭数は35頭であり、今年の約2倍となっている。



《小野信吾議員》

②今年はクマの目撃情報が特に多いようだが、設置している檻の数、苦情件数はどのくらいあるのか。里でおいしい物を食べたクマは来年も下りてくると思うが、地域住民と話し合いながら、捕獲方法を考えてはどうか。

《町長》

現在、クマの捕獲檻は町が6台、猟友会が22台、合わせて28台を設置し、捕獲を実施。11月19日現在、クマの目撃情報は99件通報されており、今年の通報件数は過去3年間の平均34件に比べ、約3倍に増加している。

今年の特徴としては、民家付近での目撃情報が多く、住民からの情報を基に、猟友会員の意見を踏まえ捕獲檻を設置しているが、捕獲したクマを駆除する際に銃器を使用することから、住民の安全を考えると民家付近での檻

設置は難しい。

また、檻に仕掛けるエサに他のクマも誘引されること、クマを捕獲した檻に住民が近づき重傷を負う事故も発生していることから、クマ捕獲、檻を設置する際は、住民の安全を第一に考え、民家から離れた場所に設置せざるを得ない現状をご理解いただきたい。

《小野信吾議員》

③現在の猿の頭数、群れ(グループ)の数は。

《町長》

今年4月から10月までの期間で31群533頭の猿が確認されている。現在、町臨時職員4人が鳥獣被害対策実施隊員として活動しているが、農作物の栽培期間においては、猿の捕獲や追払いを主に行っているため、詳細な生息頭数調査は来年3月まで実施することとしている。

《小野信吾議員》

④過去3年間の生息動向、現在までの猿の駆除頭数は。

《町長》

過去3年間の生息頭数調査では、平成28年度は40群874頭、平成29年度は41群716頭、平成30年度は39群507頭であった。

令和元年度は、群れの里への出没が極端に少なく、現在までに確認できなかった群れもいたことから、例年より少なくなると思われる。

また、猿の捕獲実績は、平成28年度で230頭、平成29年度で367頭、平成30年度

で103頭であり、令和元年度は11月19日までに136頭を捕獲しており、引き続き捕獲に努めたい。

《小野信吾議員》

⑤猟友会の会員数・実質稼働人数は。

《町長》

令和元年11月30日現在、当町における青森県猟友会深浦支部の会員数は25人で、地域別内訳は岩崎地区10人、深浦地区12人、大戸瀬地区2人と、町外の有識者1人となっている。

《小野信吾議員》

⑥猿駆除に対する助成金、猟友会の助成金、新規会員に対する助成制度などはあるのか。

《町長》

猿の捕獲駆除に対して、1頭当たり2万2千円の「深浦町有害鳥獣捕獲報奨金」を交付し、さらに、国の「鳥獣被害防止緊急捕獲活動支援事業」を活用し、猿の成獣1頭8千円、幼獣1頭千円を助成している。

また、猟友会深浦支部に対し、有害鳥獣による被害防止活動委託料として年間80万円を支出している。

猟友会新規会員に対する助成制度としては、猟銃所持許可及び狩猟免許取得に関する経費を全額助成している。また、猟銃の購入については25万円を上限に、購入額の3分の2以内の額を、罫の購入及び製作については3万円を上限に経費の3分の2を助成し、負担軽減を図っている。



▲クマ捕獲檻



《小野信吾議員》

⑦生態系を脅かす動物の当町への侵入は確認されているか。また、その対策について伺う。

《町長》

当町の生態系を脅かす動物として、二ホンジカ、イノシシ、アライグマが挙げられる。二ホンジカについては、磯地区及び長慶平地区等で目撃され、平成29年度に1頭、平成30年度に2頭捕獲している。

環境省や県関係各課と連携し、今後も二ホンジカ捕獲や越冬地調査を行うとともに、町独自でもICT(さまざま)な形状のコンピュータを使った情報処理や通信技術の総称を活用した専用の罠を設置するなど対策を講じている。イノシシについては、平成29年度に森山地区、北金ヶ沢地区で目撃されて以来情報はないが、専用の罠を導入しており、目撃情報があった際は直ちに捕獲できる体制が整っている。

二ホンジカ及びイノシシは全国的に著しく増加しており、生息頭数及び生息域の管理が必要な鳥獣に位置付けられていることから、町としても先

進地から専門家を招聘するとともに、各種研修会に参加し捕獲技術の習得に努めている。また、特定外来生物に指定されるアライグマについては、平成27年度に1頭、平成28年度に4頭捕獲して以来目撃情報はないが、近隣市町村での生息が報告されていることから、町としてもアライグマ捕獲用小型罠を導入し、イノシシの捕獲同様、目撃情報があった際は直ちに捕獲できる体制を整えている。

深浦町防災(津波)避難訓練について伺う

《小野信吾議員》

①11月2日、田野沢地区で津波を想定した避難訓練、講習会(田野沢地区津波シミュレーション)が行われ、自治会

長はじめ、役員・消防団員のテキパキとした誘導、ボランティアによる炊き出しもあり、地区住民の災害に対する意識の高さを実感した。

当町において、今回のような地域ごとの避難訓練は行われているのか。また、この事業はいつ頃始まり、これまでのくらの地区で行われたのか。

《町長》

平成23年に発生した東日本大震災を教訓に「津波対策の推進に関する法律」が制定され、毎年11月5日を「津波防災の日」と定めたこと、また、国連においても平成27年に「世界津波の日」と定義したことを踏まえ、平成27年11月5日に風合瀬地区を対象に初めて津波を想定した避難訓練を実施したところである。その後、平成28年に追良瀬地区、29年は大間越地区、30年は岩崎中地区で行い、

今年の田野沢地区で5回目の訓練実施となった。

《小野信吾議員》

②今回行われた避難訓練を他地区でも行えればよいと思うが、町長の所見を伺う。

《町長》

これまで、緊急避難道が整備されたエリアを開催地区に指定し実施してきたが、今年には地域性や津波避難の必要性等を勘案し、田野沢地区で実施したところである。

今後も各地区から実施要望等を伺いながら、継続して避難訓練を実施したいと考えている。

《小野信吾議員》

③田野沢福祉センターは海抜が低く津波が発生した場合、住民の避難場所がなくなる可能性がある。近隣地区との連携協定等が必要だと思うが、町の考えは。

《町長》

住民避難について、近隣地区との書面での連携協定等はないが、平成25年の防災訓練では12区と岡町、平成26年は追良瀬と轟木をそれぞれモデル地区に指定し、海抜の低い地区から高い地区への避難訓練も実施してきた。

当町は津波による大きな被害が想定される町であり、町民の生命を守るには、津波が発生した際いち早く高台に避難することが最良手段だと考えており、今後も防災訓練には町を挙げて取り組んでいきたい。



▲避難訓練後の講習会(田野沢地区)